

# くすのき



樟蔭学園報 Vol.155

大阪樟蔭女子大学・大阪樟蔭女子大学短期大学部・樟蔭高等学校・樟蔭中学校・大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

私たちの歴史  
SHOIN点描



## いち早く教育環境の充実に着手

1952年、創立35周年を迎える、2階建ての大学別館、栄養化学研究所(食物学科研究室)の鉄筋コンクリート製の校舎を相次いで増築。さらに、1950年代後半、樟蔭学園周辺の急速な都市化、やがて訪れるベビーブーム世代の入学に備え、中学校円形校舎、高校方形校舎を新築し、以降、順次校舎の鉄筋化・近代化を行ってきました。時を同じくして、正門と長瀬川にかかる橋橋も木製から鉄筋コンクリート製へと姿を変えました。橋橋は、蛇紋石の欄干を施し、重さ5トン以上の車両の通行にも耐えられるものでした。正門脇の守衛室は、平成元年に立て替えられましたが、当時の建物を木造で復元し、創立当初の姿を今に伝えています。

## 1955 学園組織の拡大に備え



田辺聖子文学館に再現された田辺さんの書斎

2007年、樟蔭学園は創立90周年を迎え、  
新しい時代に向けてさらに力強い歩みを続けていきます。



- |  |
|--|
| <b>ホームカミングデー 10月<br/>13日 開催</b> ..... 11<br><b>「現代GP」にダブル採択されました</b> ..... 8<br><b>[90周年企画] 樟蔭の思い出</b> ..... 7 |
|--|

- |   |
|---|
| レポート●朝日大学パートナーズシンポジウム【笑いの処方箋~現代社会での役割】 ..... 1<br>SHOIN LABO●【女性のキャリアプランについて】森田園子 ..... 3<br>こもれびの窓●『萬々堂通則』四代目女将河野美知子 ..... 5<br>NEWS●教職員と学生等の活動報告 ..... 8<br>INFORMATION●参加イベントのお知らせ ..... 11<br>we are Now●各校行事など ..... 13<br>平成18年度決算概要報告 ..... 17<br>SHOIN点描●1955年学園組織の拡大に備え ..... 19 |
|---|

## レポート

「朝日・大学パートナーズシンポジウム」

シンポジウム「笑いの処方箋～現代社会での役割」

2007年6月3日(日) 大阪国際会議場12F特別会議場にて開催



木津川計  
コーディネータ  
和歌山大学客員教授  
雑誌「上方芸能」代表・発行人



筒井康隆  
パネリスト  
作家



織田正吉  
パネリスト  
日本笑い学会理事/作家



茂山千之丞  
パネリスト  
狂言役者/演出家

笑いを受け入れる力を持つべきであり、笑いの幅を大きく持つことが大切です——茂山  
笑うことは「前向きに生きること」「生き甲斐を持つこと」の象徴です——筒井  
狂言では役者とお客様との呼吸が一緒になつたときに笑いが生まれます——茂山

6月3日(日)、朝日新聞社と大学が共同で行なう「朝日・大学パートナーズシンポジウム」の一つとして、「笑いの処方箋～現代社会での役割」と題するシンポジウムが開催されました。

シンポジウムの前半は、英米文学科の藤澤良行准教授より、授業で取り組む「英語落語」についての紹介が行なわれたほか、基調講演として作家の筒井康隆氏に「小説における笑い」というテーマでご講演いただきました。

後半のパネルディスカッションでは、「現代社会に果たす笑いの役割」というテーマで意見交換が行われ、途中には、茂山千之丞氏による「座・狂言」(座りながら一人で演じる新しい形の狂言)が演じられました。今回は、パネルディスカッションの一部について紹介したいと思います。

木津川 笑いには親和力や批判力があるといわれますが、最近は「病気の治癒力」についても注目されています。笑いが持つ治癒力とはどのようなことでしょう。

織田 笑いによる治癒力に最初に注目したのは、アメリカの雑誌編集長だったノーマン・カズンズという人物です。最近は、日本でもさまざまな調査研究が行なわれ、笑うと血糖値が下がったり、アトピーが改善したりするといった結果も出ているようです。但し、笑うだけで病気が治るということではありません。笑うことは「前向きに生きること」「生き甲斐を持つこと」の象徴であり、このことが重要だとカズンズも指摘しています。笑うだけで病気が治るなら、今頃は吉本興業が病院を経営しているでしょう(笑)。

木津川 国民の笑う力、笑わせる力について考えるとき、近年はサラリーマン川柳やマネー川柳などが流行っています。その背景についてはどうお考えですか。

筒井 最近のサラリーマン川柳などは、如何に惨めなサラリーマン生活を送っているか、如何にお金が無くて困っているかという内容が中心になっていると思います。これは自分を笑うという自虐的な笑いであり、現在の笑いの世界が自虐的な方向へ向かっていることを示しています。これは、笑いがモダンになってきていくと言えるのではないでしょうか。

織田 日本人は笑いを交換することに慣れていませんが、笑いを交換する方法として日本の伝統的な五七五の形式が効果的なのです。五七五にまとまっているければ、それは馴熟となることが多い、それはどちらかというと敬遠されがちです。五七五の形式が、笑いを交換し、伝える箱として機能しています。これは日本の文化の中でも大切なものです。

木津川 笑いは「緊張」と「緩和」の関係といわれますが、演能会などでは能と狂言が一緒に上演されます。能と狂言の関係も緊張と緩和の関係と考えられますか?

茂山 そういう考え方もあると思います。しかし、能と狂言との関係だけでなく、狂言の中だけを見ても緊張と緩和があります。最近では狂言だけを上演する機会も多く、番組を組む際にも緊張を作り出す狂言を入れて組んだ方が、より笑いが大きくなると思います。悲劇を含めたどのようなお芝居でも緊張と緩和が大切にされていると思います。それと、狂言で一番大切なのは「間」であり、役者とお客様との呼吸が一緒になったときに笑いが生まれます。

木津川 狂言の笑いは演芸場などの笑いとどう違いますか?

茂山 狂言の笑いは知的であり、狂言を見て笑う人は頭の良い方が多い(笑)。狂言を出てくるのは常識人が多く、落語に出てくる与太郎のような人物はほとんど出てこない。ところが、どんな常識人であっても人間にはちょっとした弱点があるものです。狂言には、そういった弱点を利用した笑いが多いと思います。

木津川 笑いには力があるといわれますが、どういった笑いの力に期待しますか?

織田 動物の中でも人間だけが笑います。セミとかミミズは笑いません。ワライカワセミという鳥はいますが(笑)。というのもミミズには笑う必要が無いのだと思います。ミミズには緊張も不安も無いからです。「年金はどうなる」とか「老後はどうしよう」とか不安を抱いていません(笑)。



## これからの予定

公開講演会

近松の世界『曾根崎心中』を中心に

日時：9月29日(土)14:00～16:00(13:30開場)

講師：阪口 弘之氏（大阪市立大学名誉教授）

お問い合わせ先：国文学科研究室 TEL 06-6723-8292

公開講座

第5回樟蔭ファッションセミナー「着こなすアート～きもの世界」

日時：10月13日(土)14:00～16:00

講師：通崎 瞳美氏（マリンバ奏者・アンティーク着物研究者・ゆかたブランドプロデューサー）

第6回樟蔭ファッションセミナー「モダンなチャイナドレスの魅力『近代』上海の『伝統』とファッション」

日時：10月26日(土)14:00～16:00

講師：謝 黎氏（文化人類学・放送大学講師）

お問い合わせ先：樟蔭ファッションセミナー事務局 TEL 06-6723-8227

インテリアデザイン学科公開講座

第1回目『素材・構造・インテリア』

日時：10月27日(土)13:30～16:30

講師：貴志 雅樹氏（建築家・富山大学教授）

竹原 義二氏（建築家・大阪市立大学教授）

山下 保博氏（建築家・アトリエ・天工人）

第2回目『素材・構造・インテリア』

日時：12月1日(土)13:30～16:30

講師：貴志 雅樹氏（建築家・富山大学教授）

竹原 義二氏（建築家・大阪市立大学教授）

五十嵐 淳氏（建築家・五十嵐淳建築設計）

お問い合わせ先：インテリアデザイン学科センター TEL 06-6723-8196

会場：小阪キャンパス／受講料：無料／申し込み：必要

＜上記各講座のお申し込み方法＞

ホームページ・ハガキ・FAXのいずれかの方法でお申し込みください。ハガキ・FAXの場合は、氏名(フリガナ)・住所・電話番号ご希望の講座名をご記入いただき、宛先に各講座の[お問い合わせ先]になっている部署名まで明記の上でお申し込み下さい。なお、受講許可証等はお送りいたしませんので、当日会場へお越しください。

申込宛先：大阪樟蔭女子大学+[各講座のお問い合わせ先]

住所：〒577-8550 東大阪市菱屋西4-2-26 FAX 06-6723-8348

ホームページ：[http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/general/area/open\\_lecture.html](http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/general/area/open_lecture.html)

オープンカレッジ文化講座

『子どもの教育を考える』

日程および講師：10:00～11:30

10月13日(土)「教」の教育と「育」の教育について／塩見 慎朗氏 児童学科教授(専門:教育学)

10月20日(土)「コミュニケーションと教育」／辻 弘美氏 心理学科准教授(専門:発達心理学)

10月27日(土)「いのちにふれる教育」／村井 尚子氏 児童学科講師(専門:子どもの人間学)

11月10日(土)「子どもの感じる心と考える心」／大江 米次郎氏 心理学科教授(専門:教育臨床心理学)

11月17日(土)「親子関係と教育関係」／徳永 正直氏 人間科学部長・教養教育教授(専門:教育哲学)

受講料：無料／申し込み：必要

お申し込み：ハガキまたはFAX、E-mailにてお申し込みください。本学ホームページでもお申し込みが可能です。

締め切り：各講座実施日の2日前(木曜日)まで

キッズルーム：要申し込み [申し込み締め切り：各講座実施日の4日前(火曜日)まで]

共催：香芝市教育委員会

人間科学部・短期大学部公開講演会

テーマ：『もの忘れの現場から』

日時：12月15日(土)14:00～16:00

講演：眞城 英孝氏(医) 清楓会 楓こころのホスピタル理事長

受講料：無料／申し込み：必要

お申し込み：ハガキまたはFAX、E-mailにてお申し込みください。本学ホームページでもお申し込みが可能です。

締め切り：12月14日(金)

キッズルーム：要申し込み [申し込み締め切り：12月11日(火)まで]

お問い合わせ・お申し込み

大阪樟蔭女子大学 学術振興課(関屋キャンパス)

〒639-0298 香芝市関屋958 TEL 0745-71-3168 FAX 0745-71-3141

E-mail：[s-gakujyutsu@osaka-shoin.ac.jp](mailto:s-gakujyutsu@osaka-shoin.ac.jp) ホームページ：<http://www.osaka-shoin.ac.jp>

# 森田園子

大阪樟蔭女子大学 学芸学部ライフプランニング学科教授

関西学院大学大学院商学研究科で経営学を専攻、立命館大学大学院社会学研究科博士課程後期課程単位取得満期退学。

神戸市外国語大学図書館司書、樟蔭女子短期大学専任講師・ウォリック大学(英)客員研究員・大阪樟蔭女子大学助教授を経て2005年より本学人間科学部教授。

2007年4月、学芸学部ライフプランニング学科開設により現職。

神戸市外国語大学では英語を学び、その後、経営学、さらに社会学と研究の領域を広げている。

「キャリア計画とワーク・ライフ・バランスの取り方—女子学生の就業意識調査から—」「変容期の企業と社会」「韓国の働く女性たち」など著書・論文多数



## 女性は人生の節目々々に選択を迫られることがあります。

現代社会を生き抜き、豊かで幸せな人生を手に入れるためには、ビジネス・家計・環境・消費者問題・福祉、そして衣食住から子育てまで、さまざまな領域の知識を身につけなければなりません。本学では、そうした生きていいくうえで求められる知識を身につけ、自分らしい生き方を見出すライフプランニング学科を2007年4月に設置しました。そこで教壇に立つ森田園子教授は、英語を学び図書館司書を経て、経営学、そして社会学の専門的な研究へと進まれたユニークな経歴をお持ちいらっしゃいます。女性と仕事の関わりについて研究を続けている森田先生に、自らの経験も交えて、女性のキャリアプランについてお話をうかがいました。

### どう働き、どう生きるかの選択には構造的な要因が大きく影響する

日本でも女性の社会進出はもはや当たり前のことになってきていますし、第一線で活躍している女性も多くなりました。男女雇用機会均等法(雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律)などにより、法や制度の整備は進展し、女性が働くための条件は整いつつあるといえますが、運用面ではまだまだのところがあります。社会とのかかわりのなかで、人は何かを選択することを求められます。この選択は、個人の意思によるものと考えられていますが、じつは、社会的な要因に大きく左右されています。

女性の生き方・働き方を大まかに分類すると、社会で働き続ける「就業継続型」、結婚や出産・育児などで一時離職する「中断型」、結婚や出産・育児などを機に仕事を辞める「短期・無職型」の3つに分けられます。

かつては、就業継続を希望する女性は男性同等に働きたいという“キャリア志向”をもつと考えていましたが、継続型は必ずしも“キャリア志向”が強いわけではなく、“長く働き続けたいからこそ、その時々で無理のない働き方をしたい”という女性も含まれていることがわかつきました。一方で、中断型の中にも“キャリア志向”的な女性が存在しますし、あえて



企業社会的価値観に距離をおく女性たちも出現しています。

多くの国では近年キャリア志向への移行が見られましたが、日本では思いのほか増加していないように思います。男性を標準とした働きすぎの社会への警鐘かもしれません。

### 職名が同じでも、異なるバックグラウンドのもとでは異なる展開を見せている

私の最大の関心は女性労働にあり、“女性職はこれからも選択され続けるのか”といったことに着目しています。欧米の研究によると、

秘書を始めとする女性職は一般に低賃金、低ステータスでキャリア展望に欠け、しかも女性役割が期待される職業とされています。そのような状況を解消するため、積極的に正措置や同一価値労働同一賃金のような方策がとられていますが、性役割規範が変容する現代において、女性職はどうなっていくのかとても興味深いです。

研究対象として取り上げたのは韓国の秘書です。秘書という職業は、日本でもある種のステータスのある職業として女性が活躍しているイメージで捉えられてきました。韓国でも秘書は「働く女性の先進的モデル」のように位

置づけられてきました。韓国では、トップレベルの女子大学である梨花女子大で長く秘書教育が行われています。日本では四年制大学が秘書養成の正式な場として選ばれることはありませんでしたが、韓国では先進的モデルとしての秘書の養成の舞台として梨花女子大が選ばされました。それは、韓国では秘書に高い外国语能力が求められ、四年制大学レベルの高等教育が必要とされたからです。また、日本や韓国のビジネスシーンではトップのかたわらにあって参謀としての役割を果たす男性秘書の姿が珍しくありません。これが、秘書という職種が組織にとって、また経営にとって重要な意味を持つものという認識を定着させることとなりました。欧米の女性職・秘書職研究が韓国の場合には必ずしもあてはまらないのです。

しかし、時代とともに秘書職の捉え方に変化が起り、近年、梨花女子大秘書学専攻(2006年から国際事務学専攻に名称を変更)を選択する人が減少傾向にあります。また、秘書職を目的とするのではなく、ステップアップの手段と見なす学生も現れ始めています。

### 人生の岐路において、賢い選択をしていくためには

自分自身を振り返ってみると、職業は何であれ、働く女性でいたいとの思いが強かったように思います。外国语大学を卒業後、母校の図書館での司書職を選んだのは、結婚しても続けられそうだからという理由から。当時は男性以上にという意識も強く、結婚後は、仕事も家庭も100%でなければと思っていました。職場で、子どもがいることをあえて話題にしないということも……。でも、疲れてしまったんですね。



働く女性や女子学生の意識調査、シンポジウムなどで韓国を訪れることが多い。最新の著書で、実状をレポートしている。

女性の多くは、結婚や出産、育児など人生において岐路に立つことがあります。私にもそんなときはありましたし、“一度辞めたらもう戻れない”という考えに縛られていたこともあります。ですから、学生には「人生のなかで選択を迫られるときは必ずある。そのときそのときに応じた賢明な選択ができるようしっかりと備えておくことが大切」ということを伝え、同時に、自分が立てたプランどおりに人生が進むというわけではなく、状況や環境に柔軟に対応する必要のあることも理解してもらうように努めています。その選択がどのようなものであれ、それまでにたどったキャリア、積み重ねてきた経験は生きます。人生に、決して無駄なことはありませんから。そして私の世代には思いもつかない豊かな人生を送ってもらいたいと思っています。

### これからの女性の生き方を身につけるライフプランニング学科

私が教鞭を執る学芸学部ライフプランニング学科は、ひとりの社会人として、またひとりの家庭人として、現代社会を生きるうえで直面するさまざまな問題を学び、「かしこい生活者」の育成をめざし、2007年4月に開設された新

しい学科です。現在は1期生として入学した1回生しか在籍していません。それでも、女性としてどう生きるか、社会でどう働くかといったことに対して高い意識を持っていると感じます。ライフプランニング概説という科目は、5名の専任教員がそれぞれ3回の講義を受け持つオムニバス形式の授業ですが、受講者全員が目を輝かせながら聞いてくれました。また、キャリアプランの一環として、ファイナンシャルプランナー(FP)の資格取得に対応した授業が2回生から始まるので、その助走段階として、1回生から自主的な勉強会としてFP勉強会を開くことにしたのです。自主的な勉強会といつても、外部から講師を招くなどかなり力を入れています。この勉強会の参加者を募集したところ、大変多くの学生から応募がありました。私たち教員は、これまでの経験上、1回生が3回生になるころには学生一人ひとりが成長していることを知っています。この時期の学生は、人間として大きく成長する時期なのです。このライフプランニング学科の学生たちが、どんな成長を見せてくれるのか、今からとても楽しみです。





## 河野美知子

昭和48年・大阪樟蔭女子大学食物学科卒業  
樟蔭高等学校と併せて7年間の樟蔭ライフを送った。  
江戸時代の後期に創業された老舗和菓子屋を買い取り、  
明治22年に創業した『萬々堂通則』の四代目女将。

二人姉妹の長女として生を受け以来、  
店舗のある奈良に暮らしている。  
大学卒業後、製造部門に携わり、  
結婚を機に「お店の顔」として販売部門へ。  
製造・販売を6人のスタッフとともに切り盛りしている。  
春日大社ゆかりの銘菓『ぶと饅頭』をはじめ、  
奈良の枕詞である『青丹よし』、  
東大寺二月堂のお水取りを飾る造花をかたどった  
生菓子『糊こぼし』など、  
数十種類の菓子の味と手作りの製法を継承。  
頑固なまでのこだわりは、材料や水などにも及び、  
さらに、その日の気温や湿度に合わせる職人の繊細さも  
加わることで、銘菓の味をしっかりと守っている。  
『ぶと饅頭』は、現在でもお寺さんを通して  
皇室に納められており、高松宮殿下も  
こよなく愛された逸品。  
一男一女に恵まれ、ご長男が現在五代目として修行中。  
女系の家系だった河野家にとっては、  
男の子の誕生は約100年ぶりのことだった。



高校・大学と樟蔭で過ごした7年間は、  
数多くの経験と  
たくさんの思い出を残してくれました。

奈良を代表する銘菓『ぶと饅頭』を製造・販売しているのが老舗の和菓子屋『萬々堂通則』。その四代目女将として、伝統の味を今に伝える河野美知子さん。樟蔭に憧れ、樟蔭の門をくぐった日から現在までを駆け足で振り返っていただきました。



100年来の味を守り後世に伝える  
老舗の和菓子屋の女将として

「もともとは武士の家だった河野家が、『萬々堂』を譲り受け、商売を始めたのが明治22年のこと。歴史ある老舗に違いないのですが、創業当時の記録は残っておらず、はっきりとした創業は、江戸後期としかわからないんです」と語る四代目女将の河野美知子さん。その『萬々堂通則』は、銘菓『ぶと饅頭』で有名な和菓子屋。河野家が商売を始めてからでも、優に1世紀以上の時が流れている。「味で勝負するためには、餡や衣の材料、水がとても重要なんです。それと、生ものを扱う

嫌がり製造をやめてしまったものもありました」こうした姿勢にも、味に対するこだわりを見て取ることができる。「ここ数年で、客層もお客様の好みも大きく変わってきたように思いますよ。甘さは控えめ、大きさもやや小振りなものが好まれる傾向にあります。お茶のおけいこをする人が減っているといった生活様式の変化や大人数で暮らす家が少なくなったなどの家族構成の変化などもあって、昔のように一人で何箱もということはなくなっていますね。それでも、お店のホームページをご覧になってかなり遠方からいらっしゃる方や外国人のお客様も増えてきたように思います。英語でのコミュニケーションは……難しいですね。どんなことをお聞きになっているかはわかるのですが、それにどう答えていいかがわからず、ましてや、『館』のように外国語で言い表すのに適当な言葉が見つからないものが多いですから、和菓子は『大学を卒業して35年、英語に相対することはさすがに想像していなかった様子。

好奇心旺盛な学生時代  
面白なことに積極的に挑戦

そんな美知子さんは、高校・大学の多感な7年間を樟蔭で過ごした。奈良からの通学は、現在ほど交通の便は良くなかったが、学園生活を満喫していたそうだ。「入学当初こそ女子校のにぎやかさ、大阪の派手さに戸惑い、1学年10クラス以上もある環境に驚きました。小学校も中学校もクラス数は多くありませんでしたから。高校では点字クラブに所属し、大学の1回生まで続けました。所属した理由は、「初めて見るもので、何だか楽しそうだから」。演劇が好きなクラスメイトに誘われて、舞台に立つ経験もしましたね。その後、そのクラスメイトは宝塚歌劇団に入団しましたよ」と好奇心旺盛だった高校時代を語る美知子さん。今でも2年に1回くらいの割合で、同



モダンなたたずまいと明るい店内へ改装。歴史ある建物だけに、改装も容易ではなく、遠く高松在住のデザイナーの手によるもの。裏手には製造工場を備える。

窓会で級友たちと顔を合わせるという。大学へは、子どもが好きだったこともあって児童学科への進学も考えたが、二人姉妹の長女ということもあり、お店を継ぐために自然と食物学科を選んでいたそうだ。

大変だったけど、楽しい思い出が  
たくさん詰まった7年間の樟蔭生活

「大学では教職免許と栄養士免許の両方を選択したため、実習がたくさんあってとても大変でした。でも家でおせちを作ったりしていましたから、作ることにはすんなりとなじめました。夏休みに旅行に行くために百貨店でアルバイトもしました。けっして達筆だったわけでもないのに、熨斗書きを志願したり。そこで稼いだお金を旅費に充て、友だち4人で北海道を1周した20日間の旅行はいちばんの思い出です」



薄手の衣と甘さ控えめな漉し餡の絶妙のハーモニーを奏でる『ぶと饅頭』、まさに銘菓の名にふさわしい。左の『弓月』には“奈良”らしく鹿が描かれている。

こうした楽しい思い出とともに現在も手許に残してあるものがある。それは樟蔭のシンボルともいえる袴だ。

「樟蔭の袴は憧れでした。着られるうれしさや誇りとともに、周囲の人から見られる恥ずかしさも覚えています。当時着ていた袴は今まで家の蔵に大事にしまってありますよ」

大学卒業後、家業を手伝い、職人であるご主人と結婚。子育てもひと段落し、現在は空いている時間を使って、交響館女声合唱団“Ante ante (アンダンテ)”に参加し、ボランティアで施設などをまわり、美声を披露しているという。好奇心旺盛の魂、ここにもある。

### 卒業生の方々のご活躍の様子をお知らせください。

樟蔭学園は今年で創立90周年を迎えます。日本全国、海外在住の卒業生もいらっしゃいます。さまざまな分野でご活躍されている卒業生の情報をお寄せいただき、みなさまのお力を借りて、この「こもれびの窓」で幅広い卒業生の姿をお伝えしていきたいと思います。身近でご活躍の卒業生の様子をぜひとも樟蔭学園法人本部企画広報室までお知らせくださいますよう、お願ひいたします。●TEL 06-6723-8152●FAX 06-6723-8263

# 樟蔭の思い出

樟蔭学園は、今年創立90周年を迎えました。それを記念して、卒業生の皆様に「樟蔭時代の思い出」に関する作文を募集させていただいたところ、たくさんの方々よりご応募をいただき、誠にありがとうございました。皆様の樟蔭での思い出を感慨深く拝読させていただき、今でも樟蔭を誇りに思っていただいていることを強く感じ、学園教職員一同、今後も樟蔭学園の発展に力を入れていこうと、固い決意を新たにさせていただきました。ご応募いただいた中よりすぐりの作品たちを、前号より3回に渡り「くすのき」に掲載させていただいています。皆様に、懐かしい樟蔭に触れていただき、また世代を越えて知る樟蔭の一面に触れていただければ、と思います。

## 「樟蔭時代の思い出」

上田 佐和子 [旧姓 館] (大・児童24期)

樟蔭学園、創立90周年、おめでとうございます。心から、お祝い申し上げます。

私は、昭和51年に大阪樟蔭女子大学の学芸学部児童学科(当時)を卒業いたしました。その後、あつという間に30年がたった気がします。当時の思い出といえば、寮生活や学業、部活のことなどが思い浮かんできます。初めての県外での生活で、規律ある寮生活に慣れるのが大変でした。朝6時起床で廊下で点呼し、一人でも足りないと「誰が外泊したの?」と大騒ぎでした。夜は9時が門限で、ギリギリ帰宅のアベックが別れを惜しんでいたこともあります。休日には、調理室から甘いクッキーの香りがしてきて、「あー、デートなんだな」と羨ましく思ったものです。学業では、人気のあった名倉啓太郎先生に心理学を4年間ご指導いただきました。生きていいくうえで大切なことを学ばせていただいて、心の糧となっております。ゼミ旅行にも参加していただき、越前のカニを皆と、「フーフー」言いながら真剣な眼差しで食べておられたのを思い出します。21世紀になって、越前市の大学に教えに来られて再会できたときは、本当にびっくりしました。ゆえに、最近先生の訃報を知ったときは、信じられず、いまも深い悲しみに胸ふさがる思いです。私にとって名倉先生は、心から尊敬できる素晴らしい恩師がありました。ですから、今でもきっと天国から、私たち樟蔭の仲間たちをいつもの和やかな顔をされて、暖かく見守っていてくださると信じてあります。「和顔愛語」をモットーにされた師に学び、私も人間らしい生き方をしたいと日々精進しております。

さらに思い出として残っているのは、4年間所属したマンドリン部のことです。当時、全盛期で厳しい指導や先輩への気配りなどに疲れたものです。定期演奏会や合同演奏会の合宿などでは楽器運びは下級生で、チケットのノルマ分を売るのも大変でした。でも、苦労して今までの成果を舞台で発揮できたときは、感動し涙ぐんで喜びを分かち合ったものでした。合宿を共にした仲間とは、今でも時々会って当時を振り返り、だじゃれを連發



セミ生と訪れた名倉啓太郎先生のご自宅にて



厚生年金会館大ホールで行なわれた、マンドリンクラブ第8回定期演奏会(昭和48年)

したことや練習し過ぎて茶カスが音符に見えたこと、イビキの大げかったことなどを思い出しては大笑いであります。部の講師でおられた川口先生は音楽にとても情熱を燃やされて、先生の厳しいご指導は、私にとっても貴重な経験がありました。おかげ様で20世紀最後の年には、川口先生のご尽力により実現できた「日希修好百周年」の記念としてのギリシャへの演奏

旅行に参加できました。一期一会の経験をさせていただいたことは、このうえない幸せに思います。

大学で学んだ心理学・音楽・絵画などがきっかけとなり、現在はヤマハ講師として25年目を迎えました。ピアノやフルート、大正琴などの指導、コーラスの伴奏などをさせていただいております。ときにはイメージアップにと、絵にも挑戦し、少しは評価を得られ

るようになりました。「歳はとっても心は二十歳」で、あの頃抱いた夢に向かって、一歩一歩近づいていき、「素晴らしい人生だった」と思えるようになります。

最後に、大阪樟蔭女子大学で学んだことを誇りとし、また今後樟蔭学園が益々充実し、向上することを願っております。



たくさんの樟蔭卒業生が参加した「日希修好百周年記念演奏会」の会場となったギリシャ・アテネ大学にて(平成11年)

# NEWS

## 取り組み

### 大阪樟蔭女子大学の提案する取り組みが次々と評価されています!

#### 1.「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)にダブル採択!

社会的要請の強い課題に対する特に優れた教育プロジェクト(取り組み)を文部科学省が選定するという「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)において、大阪樟蔭女子大学から2件の申請が採択されました。私立大学においては合計193校から259件の申請がありましたが、ダブル採択されたのは7校のみで、本学の取り組みが高く評価された結果であるといえます。今後は、採択されたプログラムに全力で取り組み、現代社会や地域社会へ還元できる成果を得られるように努力するとともに、社会に貢献できる人材の育成に力を注いで参ります。なお、今回採択された取り組みは次の2件です。

##### ①「学生による地域協創型子育てモデルの開発」 ～女子大学が行う男女共同参画社会における子育て支援モデルの提言とその社会的実践に向けて～

この取り組みでは、学生が男女共同参画社会における子育てを学び、地域に対して子育て支援モデルの提言を行うことを目的としています。家庭の子育て機能不全と地域コミュニティーでの子育て支援機能の低下・解体に問題の焦点を当て、普遍的な「子育て支援モデル」の構築を図り、社会への提言を行なって参ります。学生が地域の子育て施策に参画し問題の解決を図ることで、地域の少子化対策プロジェクトの一翼を担うとともに、地域協創型社会の創生と地域の人材育成に貢献していきます。



##### ②「総合的人間力を育てるサイクルプロジェクト」 ～ジェネリック・スキルを用いたキャリア教育開発プログラム～

女性の社会進出の多様化が進む一方、自らの目標が設定できない学生が増えているといわれています。このような問題に対応するために、汎用的で総合的なキャリア教育の体系化を図り、さまざまな状況に対応できる高次のスキルである「ジェネリック・スキル」の教育システムを構築し、総合的人間力の育成を目指します。本学では、ジェネリック・スキルを「課題解決能力」「知識を活かす知恵」と捉え、循環する4つの力=「気づく」「考えぬく」「聴き・伝える」「やり遂げる」力と再定義し、これらのスキルが身につくような教育プログラムを開発していきます。



#### 2.「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に選定!

社会人の「学び直し」ニーズに対応するため、社会人の再就職やキャリアアップなどに資する優れた実践的教育への取り組みを推進するという「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の一つとして本学の提案が選定されました。これは、平成19年度より文部科学省が委託事業として実施し、全国の大学などから事業を公募していたもので、「学び直し」に資する良質な教育プログラムの普及を図ることを目的としています。本学が提案し、選定された事業は次の通りです。

##### 事業名

##### 「有資格者等に対する児童英語の学び直しと教育現場での英語活動指導力育成プログラム」

##### 事業の概要

女性の長期的なライフプラン設計を支援し、結婚や出産などで就業を中断した人材に、再チャレンジに向けた学習・能力開発支援・キャリア形成支援と円滑な再就職を促すことは、女子大学に課せられた使命ともいえます。本学の英米文学科・児童学科・ライフプランニング学科を中心とする教育資源を活用し、保育士・幼稚園・小学校教諭などの有資格者や、英語力を有する人材に、社会復帰とその能力を活用するための支援プログラムを行います。

近年では幼稚園や小学校での児童英語の導入が進んでいます。しかし、英語力のある指導者は多いものの、児童英語活動に特化した専門知識を持った指導者は不足しているといえます。これらの技能を持った指導者の育成が求められており、就業を中断している有資格者や現役教員に「学び直し」の機会を提供していきます。

